

▲▼▲▼△▽△▽▲▼▲▼△▽△▽▲▼▲▼△▽△▽▲▼▲▼△▽△▽  
ひろしま遊学の森 緑化センターメールマガジン VOL.316H28.4.20  
△▽△▽▼▲▼▲▽△▽△▼▲▼▲▼△▽△▽△▼▲▼▲▼△▽△▼▲▼▲

園内は新緑や八重桜、キリシマツツジ等で色彩豊かになりました。エヒメアヤメも咲き始めました。また、セイヨウバクチノキの花や、ハンカチノキの総苞片も例年より早く開き始めています。

ホームページに開花状況が掲載されていますので、そちらも参考にしてください。(開花状況 URL <http://ryokka-c.jp/kaika/jouhou.html>)

## ★さくら情報

### 関山 (写真1左)

八重桜の代表種でカンザンまたはセキヤマと読みます。江戸時代後期から記録があり、明治時代に荒川堤から全国に広がりました。オオシマザクラを母体とする大輪紅色の八重咲きで、寒さや病害虫に強いいためよく植えられています。開きかけの蕾をさくら茶に利用します。

場所：管理事務所周辺

### 御衣黄 (写真1右上)

ギョイコウと読み、八重咲きで花卉が淡い黄緑色を帯びる珍しい品種で、江戸中期から名前の記録があります。よく似た品種に鬱金(ウコン)(写真1右下)がありますが、御衣黄と鬱金は遺伝子にほとんど違いがなく、鬱金の花卉にも御衣黄の様に緑色を帯びることがあります。どちらも花の終わり頃に花卉が淡紅色に、中心が紅色になります。

場所：さくら通り, 多目的広場(御衣黄), 作業舎裏, 第3駐車場(鬱金)

### 紅時雨 (写真2左)

紅色八重咲きの品種で、樹形が天の川(サクラ品種)のと同じく盃状になります。

場所：第5駐車場

### 紅普賢 (写真2右上)

室町時代から記録がある、八重咲きで2本の雌しべが葉化して長く突き出す「普賢象(フゲンゾウ)」の花卉の色が濃い品種で、ベニフゲンまたはコウフゲンと読みます。葉化した雌しべを歯、八重の花卉を鼻とし、普賢菩薩が乗る白象に見立てて名付けられました。普賢堂とも呼ばれます。

場所：第5駐車場他

### 松月 (写真2右下)

明治時代に荒川堤から広まった八重咲き品種で、花卉は白色に近く、外側が淡紅色を帯びます。普賢象の様に雌しべが葉化しますが、若芽が緑色で花よりやや遅れることで見分けられます。

場所：作業舎裏上, 集いの広場

**兼六園菊桜（写真3左）**

孝明天皇より下賜されたと伝えられる原木は石川県の兼六園に原木があり、1928年に国の天然記念物に指定されましたが、1970年に枯死しています。枯れる前に、京都の桜守の佐野藤衛門氏らによって後継樹が増殖され、兼六園をはじめ、現在では全国各地で見られます。花卉が300枚以上あるため、菊桜の名がついています。展葉と同時かやや遅れて開花します。

場所：県木の森横

**★園内さくら状況まとめ**

見頃	関山（写真1左）、御衣黄（写真1右上）、鬱金（写真1右下）、紅時雨（写真2左）、紅普賢（写真2右上）、松月（写真2右下）、兼六園菊桜（写真3左）、佐野菊桜（写真3右）、紅華、花笠 他
----	---

**★園内開花状況まとめ（サクラ以外）**

咲き始め	ハンカチノキ、セイヨウバクチノキ、キリシマツツジ、ヒラドツツジ、フジ、ヤマフジ、ジャコウフジ、ケヤキ、ズミ、ナガバモミジイチゴ、ユズリハ 他
見頃	エヒメアヤメ、シナヒイラギ、ミツバアケビ、ムベ、ハナカイドウ、キシツツジ、セイヨウシャクナゲ、カリン、リキュウバイ、ナワシログミ 他



写真1左 関山（管理事務所前） H28.4.18



写真1右上 御衣黄（さくら通り） H28.4.18



写真1右下 鬱金（作業舎裏） H28.4.18



写真2左 紅時雨 (第5駐車場) H28.4.18



写真2右上 紅普賢 (第5駐車場) H28.4.18



写真2右下 松月 (作業舎裏) H28.4.18



写真3左 兼六園菊桜 (具木の森横) H28.4.18



写真3右 佐野菊桜 (具木の森横) H28.4.18